

仏前勤行次第私

() 内は読まなくともよい

○合掌礼拝

(恭しくみほとけを礼拝したてまつる。)

○懺悔

(無始よりこのかた 貪瞋痴の煩惱にまつわれて
身と口と意とに造るところの もろもろの
つみとがを みな悉く懺悔したてまつる。)

○懺悔

私が昔から造った所の諸々の悪業は、限りなく遠い昔からの「欲」と「いかり」と「ぐち」により、「からだ」と「ことば」と「こころ」より生じたものです。そのすべてを私は今、懺悔します。

我昔所造諸悪業 皆由無始貪瞋痴
従身語意之所生 一切我今皆懺悔

○三帰

(この身今生より 未来際を尽くすまで
深く三宝に帰依したてまつらん)

○三帰

仏さまの弟子である私は、いついつまでも

弟子某甲 尽未来際
帰依仏 帰依法 帰依僧

三反

・仏さまに帰依します。
・おしえに帰依します。
・僧に帰依します。

○三竟

(この身今生より 未来際を尽くすまで ひたすら三宝に帰依したてまつり とこしえにか
わることなからん)

○三竟

仏さまの弟子である私たちは、いついつまでも

弟子某甲 尽未来際
帰依仏竟 帰依法竟 帰依僧竟

三反

・おしえに帰依いたしました。
・僧に帰依いたしました。

○十善戒

(この身今生より 未来際を尽くすまで 十善の
みおしえを 守りたてまつらん)

弟子某甲 尽未来際

不殺生 不偷盜 不邪淫 不妄語

不綺語 不悪口 不両舌 不慳貪

不瞋恚 不邪見

三反

○十善戒

私たちはいつい
つまでも

①ころさない

②ぬすまない

③男女間の不正
なことをしな

④うそをつかな
い

⑤真実に背いた
飾つた言葉は
言わない

⑥悪口は言わな
い

⑦二枚舌は使わ
ない

⑧欲張りをしな
い

⑨怒り憎しむこ
とをしない

⑩間違つたもの
の見方をしな

○發菩提心

(白淨の信心をして發して 無上の菩提を求む
願わくは自他もろともに 仏の道を悟りて 生死
の海を渡り すみやかに解脱の彼岸に到らん)

○發菩提心

私は今、さと
りを求める心をお
こしました。ど
うぞお導きくだ
さいませ。

おんぼうじ した ぼだはだやみ

三反

○三昧耶戒

(われらはみほとけの子なり ひとえに如来大悲
の本誓を仰いで 不二の淨信に安住し菩薩利他
の行業を励みて 法身の慧命を相続したてまつ
らん)

○三昧耶戒

仏さまと私たち
衆生は平等です。
仏さまが私たち
の中に入ってお
られ、私たちは
仏さまの中に入
っています。

おん さんまや さとばん

三反

このことを堅く信
じて、仏さまから
いただいたいる
のちの光を見失
わないようにしま
すから、どうぞお
導きくださいませ。

○開經偈

(無上甚深微妙の法は 百千万劫にも遭い遇うことかたし われいま見聞し受持することを得たり 願くは如来の眞実義を解したてまつらん)

○開經偈

この上なくすばらしく、妙なる功德のある教法に出会うことは、どんなに長い年月をかけても難しいものです。今、私は幸いにもこの無上の教法を信修(信じて修行)する機会を得ました。願わくはこの教典に説かれている、仏の眞実義を信解し、修証せんことを心から誓います。

無上甚深微妙法 百千万劫難遭遇
我今見聞得受持 願解如来眞実義

○般若心經

(般若心經は 仏教の精要 密蔵の肝心なり このゆえに誦持講供すれば苦を抜き樂を与え 修習思惟すれば道を得 通を起こす まことにこれ世間の闇を照らす明燈にして生死の海を渡す船筏なり 深く鑽仰し 至心に読誦したてまつる)

仏説摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空
度一切苦厄 舍利子 色不異空 空不異色 色即是空 空即是色 受想行識 亦復如是 舍利子 是諸法空相 不生不滅 不垢不淨 不增不減 是故空中無色無受想行識 無眼耳鼻舌身意 無色声香味触法 無眼界 乃至無意識界無無明 亦無無明尽 乃至無老死亦無老死尽 無苦集滅道 無智亦無得 以無所得故 菩提薩埵

依般若波羅蜜多故 心無罣礙無罣礙故 無有
 恐怖遠離一切顛倒夢想 究竟涅槃 三世諸佛
 依般若波羅蜜多故 得阿耨多羅三藐三菩提
 故知般若波羅蜜多 是大神呪 是大明呪 是無
 上呪 是無等等呪 能除一切苦真實不虛 故說
 般若波羅蜜多呪 即說呪曰
 羯諦羯諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦 菩提薩婆訶
 般若心經

○ 箸藏寺 本尊真言

おん くびらや そわか

三反 或は 七反

○ 十三仏真言

三反 或は 七反

一、不動明王

のうまくさんまんだばざらだん せんだまかろ
 しゃだそわたや うんたらた かんまん

※初七日

二、釈迦如来

のうまくさんまんだぼだなんばく

※二七日

三、文殊菩薩もんじゆぼさつ

おん あらはしやのう

四、普賢菩薩ふげんぼさつ

おん さんまや さとばん

五、地藏菩薩じぞうぼさつ

おん かかか びさんまえい そわか

六、弥勒菩薩みろくぼさつ

おん まいたれいや そわか

七、薬師如来やくしにょらい

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

八、観世音菩薩かんせおんぼさつ

おん ありきや そわか

九、勢至菩薩せいしほびつ

おん さんざんさく そわか

十、阿弥陀如来あみだにょらい

おん あみりたていせいからうん

※三七日

※四七日

※五七日

※六七日

※七七日

※百箇日

※一周忌

※三回忌

十一、阿闍如来あしゆくによらい

おん あきしゅびや うん

十二、大日如来だいにちによらい

おん あびらうんけん ばざらだどばん

十三、虚空蔵菩薩こくうぞうぼさつ

のうぼう あきやしやきやらばや おん ありきや
まりぼりそわか

※七回忌

※十三回忌（金）
十七回忌（胎）

※三十三回忌

○光明真言こうみょうしんごん

（唱となえたてまつる光明真言は 大日普門だいにちふもんの
万徳まんとくを二十三字じに撰あつめたり おのれを空むな
しうして一心いっしんに唱となえたてまつれば み仏ぼん
の光明こうみょうに照てらされて 三妄さんまうの霧きりおのずか
らはれ 淨心じょうしんの玉明たまあきらかにして 真如しんによの
月つきまどかならん）

○光明真言

万徳を備えられた
大日如来さま、福
徳と智慧を有され
た如来さま、私
ちをもその境地に
転入せしめたま
え。どうぞこのこ
とがかなえられま
すように。

おん あぼきや べいろしやのう まかぼだら まに
はんどまじんばら はらばりたや うん

三反 或あるいは 七反

○御宝号ごほうごう

（高野たかのの山やまに身みをとどめ 救すくいのみ手てを垂た

れ給う おしえのみおやに帰依したてま
つる 願わくは無明長夜の闇路をてらし
二仏中間の我等を導きたまえ

南無大師遍照金剛

三反 或は 七反

○祈願文

(①または②を用いる)

①

至心發願 天長地久 即身成仏 密嚴国土
風雨順時 五穀豐饒 万邦協和 諸人快樂
乃至法界 平等利益

②

(または戒名)

願わくは○○家各靈 三業の罪過を消滅して諸
仏の前に生じ見仏聞法し 無生忍を證し 普く
無盡無一切有情界に共に普賢の行願を満足せ
んことをならびに願わくは彼々現存親眷の者
見聞を種と成し 福智増長して菩提心を發し
共に如来の正法を護持せんことを

○回向

(願わくは この功德をもって あまねく
一切に及ぼし われらと衆生と みなとも

※無生忍
一切のものが不生
不滅であると認め
ること

○回向

こい願わくは、以
上修したところの
經文読誦の善功德

に仏道を成ぜん

願がんに以に此し功く徳どく
我が等とう与よ衆しゆ生じよう

普ふ及及於お一い切っさい
皆かい共ぐ成じよう仏ぶつ道どう

(以上)

力を一切の人に及ぼして、自らも他人も、みなともに仏さまのおおいなる悟りを達成できますように。

真言宗御室派

別格本山 箸蔵寺